

福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）素案に対する意見及び

意見に対する福岡市の考え方

1	「福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）」素案に 対するパブリック・コメント実施結果について	・・・	1
2	市民意見に基づく「福岡市子ども読書活動推進計画 （第4次）」素案の変更内容	・・・	2
3	福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）素案に対する 意見及び意見に対する福岡市の考え方	・・・	3
4	（参考）福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）の概要	・・・	17

**「福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）」素案に対する
パブリック・コメント実施結果について**

「福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）」を策定するにあたり、広く市民から意見を募集するために、パブリック・コメントを実施した。

（1）意見募集期間

令和4年12月22日（木）～令和5年1月23日（月）

（2）意見の提出状況

○提出数 34 通

○意見件数 79 件

【意見集計結果】

区分	意見への対応	意見 件数	(内 訳)	
			素案の とおり	修正
第1章 計画総論		26	25	1
1 計画の策定にあたって		7	6	1
2 計画策定の基本的な考え方		19	19	0
第2章 計画各論		51	49	2
1 子ども読書活動推進の取り組み				
(1) 家庭・地域における読書活動の推進		3	3	0
(2) 学校における読書活動の推進		37	35	2
(3) 図書館における読書活動の推進		8	8	0
(4) 家庭・地域、学校、図書館の連携による 読書活動の推進		3	3	0
その他		2	2	0
合 計		79	76	3

市民意見に基づく「福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）」素案の変更内容

番号	ページ	項目	変更内容
1	8	3 第3次計画における取組みの成果と課題 ②大人も子どもも読書に親しめる機会づくり <課題>	上から10行目の「乳幼児期、児童期、生徒期など年齢や発達段階に応じた読書機会として家庭や地域でも継続した取り組みを行う必要があります。」を「 <u>家庭や地域でも乳幼児期、児童期、生徒期など年齢や発達段階に応じた読書機会として継続した取り組みを行う必要があります。</u> 」に修正。
2	31	2 学校における読書活動の推進 <目標1 自分から読書に親しめる環境づくり> ○学校図書館の環境整備の充実	上から7行目の「『学校図書館図書標準』達成や学校図書分類に基づいた学校図書の適正配備」を「『 <u>学校図書館図書標準</u> 』達成や <u>計画的な図書の更新、『学校図書館メディア基準』(公益社団法人 全国学校図書館協議会)の標準配分比率を参考とした学校図書の適正配備</u> 」に修正。
3	32	2 学校における読書活動の推進 <目標2 自分から読書に親しめる機会づくり> ○子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり	上から3行目の「読書活動を推進していきます。」を「 <u>読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、ビブリオバトル、教職員や児童・生徒のおすすめの本の紹介などの読書活動を推進していきます。</u> 」に修正。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
1	6	第3次計画における取組の成果と課題	第3次計画では地域における読書ボランティアの活動支援、子ども読書の情報発信が新規施策としてうたわれていたが、どのような取組が行われたのでしょうか？	1 素案どおり	活動支援につきましては、団体貸出の登録をされた地域団体などへの専用図書貸出、読書活動ボランティア講座及び地域文庫交流会を実施しました。 情報発信につきましては、こども図書館ニュース、モデル児童図書リスト、司書が選ぶ100冊の絵本を作成しホームページに掲載するとともに配付や展示を行いました。また、こども図書館講座などの動画を配信し情報発信に努めました。
2	6	第3次計画における取組の成果と課題	学校図書館の活性化を図るために学校図書館の活用モデルとなる学校図書館全体計画を作成するとありましたが、どのような計画が策定されたのでしょうか。ここ数年、学校での全校一斉の読書習慣が落ちてきていると感じます。私が読書ボランティアをしている小学校でも読み聞かせができる学年が2017年は1～6年生であったのに、2022年は1～3年生に減りました。子どもたちの読み聞かせの機会が学校任せになっていて、全体の施策として実行されていないのではと思います。	1 素案どおり	「学校図書館全体計画」は、校長のリーダーシップのもと、計画的・組織的に学校図書館教育を実施するため、各学校において毎年度作成しているものです。いただいたご意見につきましては、学校における読書活動の推進の参考にさせていただきます。
3	6	第3次計画における取組の成果と課題	いつでもどこでも自分から読書に親しめる環境づくり 読書に慣れている子どもは、自ら本を手に取り、選ぶことができますが、読書が苦手な子ども、読書が楽しいことを知らない子どもは自ら本を選ぶのが難しく本離れになっています。近年、そういう子どもは増えていると思います。場所に本を置くだけでなく、その子に合った本を手渡す人が必要です。また、100冊の本をおいても、それを管理する人、また定期的に新しい本の導入も大切だと思います。 学校図書館は子どもたちが本に出会える大切な場所だと思います。本を手渡す司書さんが各学校に1人必要ではないでしょうか。子どもに本を紹介するには、その子の読書歴、好みを知っていないとその子にあった本を手渡すことは難しいです。各学校に司書さんを常駐していただきたいです。場所も必要ですが、そこに知識のある人の配置はもっと大切だと思います。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
4	7	第3次計画における取組の成果と課題 ②大人も子どもも読書に親しめる機会づくり	<成果>「4か月児健診で絵本をもらって」が読み聞かせを始めたきっかけの第1位なのが、ブックスタートボランティアとしてはとてもうれしいです。コロナ禍で以前の様にその年の配本となった絵本を読んだり、市の図書館用の図書カードの申請や地域の公民館文庫の紹介ができなくなって残念です。保健所の職員の皆様も大変ご多忙の中ブックスタートの郵送作業をして下さり感謝申し上げます。ブックスタート事業が今後も続き、私たちボランティアが配本の選本に今後も携われることを希望します。	1 素案どおり	「ブックスタート事業の推進」の中で、事業実施についての参考にさせていただきます。
5	8	「子どもの読書活動を支える人材づくり」の読書リーダー育成	①P8「子どもの読書活動を支える人材づくり」の読書リーダー育成に関する件ですが、2学期は非常に行事が多く、また、学校司書は勤務時間が非常に少ないため、来校時間等の調整や子どもの研修時間がうまく取れず本校では実施できませんでした。4月にご提案いただけると、委員会活動発足の際の意欲付けにもつながり、活躍の場も増えるかと思えます。実施期間を5月から12月くらいまで長めに設定していただくと子どもたちも参加できる機会が増えてよいと思えます。	1 素案どおり	第3次計画において、「小学生読書リーダー養成講座」を受講した児童が、受講後主体的に読書活動に関わることができたということが報告されています。読書リーダーの活躍の場が広がるよう、講座の実施時期を検討してまいります。
6	8	第3次の成果と課題	●P8〈課題〉 →「取り組みを行う」のは誰なのか主語を明確にしてほしい。	2 修正あり	「家庭や地域でも乳幼児期、児童期、生徒期など年齢や発達段階に応じた読書機会として継続した取り組みを行う必要があります」に修正します。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
7	8 10 11 36	図書館(目標3)読書活動に関わる人材への活動支援	わたくしが所属する「福岡おはなしの会」は、総合図書館で実施されるボランティア講座で実演や実習の講師を引き受けています。昔話などをストーリーを全て覚えて語るストーリーテリングコースが3年ぶりに開催され、殆どが熱心な受講生ばかりでした。講座を受けることで活動を始めるきっかけはできて、その後、続かないことがあり、どう継続していったらいいか、そこにも重点を置くべきではと考えます。講座のあとの「おさらい会」、地域の分館、文庫への道すじづくりをすすめて、講座の受講者が、自分の住んでいる地域で活動する仲間とともに経験を積み重ねてほしいと思います。	1 素案どおり	読書活動に関わる人材への活動支援の具体的な取組みにつきましては、第4次計画の施策を実施していくうえで検討してまいります。 なお、読書活動ボランティア講座受講後の活動継続につきましては、講座受講者に配付しています地域文庫マップの内容を充実するなど支援に努めてまいります。
8	8 32	●P8③子どもの読書活動を支える人材づくり(成果)〈課題〉 ●P32〈目標 子どもの読書活動を支える人材づくり〉 ●P32〈目標 子どもの読書活動を支える人材づくり〉	●P8③子どもの読書活動を支える人材づくり(成果)〈課題〉 ●P32〈目標 子どもの読書活動を支える人材づくり〉 →司書教諭と学校司書が1校につき週に何時間、司書業務に従事出来ているのかが知りたい。研修を重ねてスキルが向上しても時間数が不足しては、資料の収集も提供も適切なタイミングを逃してしまうと思われる。教員と生徒児童のニーズに応えるのも常駐している事が前提である。不在の時間が多ければ子ども達の足は遠く。 また、ボランティアはあくまで有志が善意で活動しているので、補助的な存在であることを忘れてはならないように思う。	1 素案どおり	学校図書館担当者は、週あたりおよそ70分、学校司書は担当校数によりますが、1校あたり週2.4~4時間従事しています。
9	10 12 13 19 22 30 33	学校司書の効果検討	2 学校における読書活動の推進 下記のように、国の第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」に基づき学校図書館の整備が進められています。どうぞ、呼びかけに応じて学校図書館の充実を図って下さい。1にも2にも、先ず、学校司書を全校配置していただきたい。現在のように複数校兼務・しかも1日4時間では効果も限られます。全校配置・フルタイムにより、児童生徒に学校図書館を登校から下校迄、いつでも図書館に司書がいる体制をとって下さい。他自治体でも宇美町・粕屋町・柳川市等、学校司書配置と言え1校に1人の学校司書が勤務、子どもや教師対応をしています。福岡市の現状は限られた時間、それも4時間という短時間勤務では、本来の学校図書館学校司書としての役割が果たせません。子ども達にとって学校図書館は、保健室と同様、心の休みどころ(ほっとする場所)しかし、現状は常勤ではない。一週間に1日では学校司書に接する時間が限られ、児童、生徒にとっても、学校図書館に行けば司書の先生に会える・本について教えてくれる、という信頼感が中途半端ではないでしょうか？司書本人たちにとっても、複数校勤務もあるとのことで、連日、日替わりのような職務では、精神的にも肉体的にも余裕が無くなるでしょう。子ども達、特に低学年の子どもにとって読み聞かせをしてもらえるのが1週間に一度では他自治体のように、専任の学校司書が朝8時から夕方5時まで在籍、という自治体の子ども達との差は開くばかり。終日学校司書が在籍する自治体との格差が拡大するのみ。図書館利用することで、子ども達。「自分で考え、自分の言葉で自分から話し、自分で行動し、自分から動く」自立した児童生徒の成長には、図書館は必要です。そしてその図書館にはいつでも寄り添う学校司書がいて政策の実が上がるというものでしょう。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
10	13	計画の目指す姿	★本を読む子どもが増える取り組み案 子ども達は本が面白いものだと思うなければ、読書への関心が高まらない。おはなしや本を楽しめるものだと感じてくれる下地づくりの為に、昔話を耳から聞くことを強く勧めたい。字を読むのではなく耳から聞く昔話は、小さい子でも分かりやすいシンプルなストーリーで耳に心地よい美しい言葉や文章で書かれてある。昔話は小さい子の為だけでなく、高学年でも聞きごたえのある不思議で冒険心溢れるものもある。小学校に入る前から、高学年になるまで、昔話を継続して聞いてもらえる機会を是非ともつくってほしい。昔話をたくさん聞いて、軽快な言葉のリズム、美しい言葉の響き、いくつものおはなしを心に蓄え、物語を好きになってくれれば、読書好きの子どもたちが増えるのではないかと思う。	1 素案どおり	「昔話の語りを聞く」という体験も子どもの読書活動につながる経験として、学校における取組みの参考にさせていただきます。
11	13	計画の目指す姿	p13 計画策定の基本的な考え方に大きな異論はないが、実行していくにあたって専門知識をもつ公共図書館の司書を是非正職員として雇用し読書活動を推進して欲しい	1 素案どおり	図書館の司書の雇用につきましては、図書館全体の運営体制を考える中で検討してまいります。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
12	14	計画の基本目標	○計画の基本目標(1)自分から読書に親しめる環境づくり、(2)自分から読書に親しめる機会づくりの具体的な対策として、福岡市所有の移動図書館車を、文字通り、移動する図書館機能として活用することを提案致します。 現在、福岡市図書館の移動図書館車“青い鳥号”は、福岡市総合図書館団体貸出において、登録団体のうちのごく一部の団体への“青い鳥配本”(本を車内の棚に配架し、移動先でえらんでもらう方式)としてしか使用されていません。 私は、職員としてその業務に関わってまいりましたが、選んでいるときの子どもたちのうれしそうな顔、お互いに好きな本を紹介しあうさまを目の当たりにして、ぜひ多くの子どもたちにこの体験を味わってほしいと常々考えておりましたが、残念ながら、団体貸出に登録できた団体にしか提供できていません。そこで、福岡市図書館分館からは遠く、とても自分たちだけでは図書館に行くことができなかったり、あるいは病気などの事情により遠出できない方々のためにも、団体登録が不要で、移動図書館車で貸出カードの作成、貸出・返却、予約の受付、予約本の受取ができるようにしていただきたいと考えています。当然のことながら、団体貸出の業務も重要な業務であり、現状の人員では、上記の業務を行うことはできません。そのためこの業務専任の人員配置、予算措置が必要となります。大変かとは思いますが、遍く本を選ぶ楽しさを感じていただくためにも前向きな検討をお願い致します。	1 素案どおり	現状での実現は困難ですが、ご意見を踏まえ今後、図書館のあり方を検討するうえで研究してまいります。
13	15 26	家庭・地域における読書活動の推進	親子の関わりにおいて、子どもに簡単にスマートフォンを渡して動画等で子守りをしている様子を目にします。親世代が子どもをひざに乗せてスキンシップをとりながら自分の声で読み聞かせをすることの大切さを認識できるよう公民館のサークル等で啓発が進むとよいと思います。	1 素案どおり	P26計画各論「保育所における子どもの読書活動の推進」の具体的な取組内容の参考にさせていただきます。
14	16	(3)図書館における読書活動の推進	福岡市子ども読書フォーラムのような、福岡市内で読書活動にかかわる人たちが協力し、また交流できる場をぜひ作ってほしい。	1 素案どおり	関係機関と連携した、子どもの読書に親しめる機会づくりの具体的な取組につきましては、第4次計画の施策を実施していくうえで検討してまいります。
15	16	学校における読書活動の推進	携帯やPCの発達で、子ども達の本離れは深刻です。本を読んでいるようで、児童文学といえる本が読める子どもはどんどん減っているのではないのでしょうか。これは、言葉、表現力の衰退につながります。どの子にも読書をとすると、学校をあげて読書活動に力を入れて欲しいです。本や詩にふれ、美しい言葉にふれ、感じる力が人を育てていくことにつながるのではないのでしょうか。	1 素案どおり	ことばの力をつけるために、読書は大切な役割を担うと考えます。 いただいたご意見を参考に、学校における読書活動を推進してまいります。
16	16	学校における読書活動の推進	◇学校図書館について 16頁:(2)学校における読書活動の推進 現在、学校司書一人あたり4~5校を兼任され、勤務できるのは一校につき月数回程度。そして学校司書不在の時には図書室が施錠されているとの事。休み時間など子どもが利用したい時に図書室に入れないのでは図書室離れするのは当然の結果です。各校に1名ずつの学校司書を常任にして、子どもがいつでも本に関する相談ができる状態にしていきたいです。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
17	16	学校における読書活動の推進	②P16(2) 学校における読書活動の推進に関してです。司書教諭を中心に学校司書等との連携と書かれていますが、本市では、学校司書は4、5校を兼務しており、一校の勤務時間は週に4時間と大変短く、その時間では、連携をとることも難しく、子どもたちと出会う機会さえないこともあります。授業等の選書のアドバイスをしても、本の修理だけで勤務時間が終わってしまうのが現実です。また、研修や図書購入にも勤務日を当てないといけないことや、長期休業中は勤務がないので蔵書点検が一緒にできず、とても困っています。全校配置といっても、この勤務状況では学校図書館の活用や子どもたちの読書指導には力を発揮していただくことがとても難しいと感じています。 学校司書の専門性をもっと生かすためにも、ぜひ、学校司書の増員を強く望みます。 「学校図書館にいつも人(学校司書)がいる。」 「人(学校司書・教員)を通して本を知る。本を通して人を知る。」 そんな読書環境を子どもたちに作ってあげたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
18	16	学校における読書活動の推進	<p>公共図書館は保護者の教育的意識が高い子どもは利用できるが、福岡市の公共図書館は子どもたちが自分で行ける範囲に図書館がないので、学校図書館が重要だと思う。学校図書館を運営する人材は、司書教諭や学校司書だが、司書教諭は担任など様々な業務を担っており、学校司書は週に1回か2回の勤務。図書委員会活動になかなか参加できず図書祭りなども複数校なのでじっくり子どもたちを指導できない。また、中学校は図書室がいつも閉まっている状態。学校図書館は、情報、学習、読書と共に子どもが心を落ち着ける場所でもある。学校図書館に人材をしっかりつけてほしい。</p> <p>また、資料が古くなったりボロボロになったりしている本を小学生は読まされている。もっときれいな内容のしっかりしたものを手渡してほしい。また、学校図書館のエアコンは冷房はついていないが、暖房がついていないところが多く、子どもたちは寒い中本を読まなければならない、環境が悪い。読書は子ども達の知性や心を育てるものなので、学校図書館の人材、資料、環境に予算をかけてほしい。</p>	1 素案どおり	<p>文部科学省が示す学校図書館図書標準冊数を維持・向上できるよう予算の確保に努めており、引き続き学校の状況を把握して、適切に図書の更新や追加が行えるよう努めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、第4次計画などの具体的な取組みを検討する際の参考にさせていただきます。</p>
19	16 30 ~ 33	学校における読書活動の推進	<p>16ページ、30~33ページ、学校における読書活動の推進について。</p> <p>素案からは、進む子ども達の本離れや国語力の低下を、どうにか食い止めなければならないとの焦る思いが伝わってきます。長年子どもの読書に関わってきたものとしては大変有り難く感じています。文庫ボランティアとしても思うところはありますが、今回は学校司書として感じたことを述べさせていただきたいと思えます。</p> <p>学校図書館が一番子ども達に身近な場所であって、本離れが始まる時期の子ども達が過ごし、その点に大きな影響力を發揮できる学校図書館についての記述は、漠然とした記述に留まり、具体策に欠けることが残念でなりません。根本的な改善がなされない限り、第3次計画とさほど変わらぬ結果またはそれ以下で終わってしまうように思えます。</p> <p>「学校図書館図書標準100%」を掲げることに異存はありません。図書の充実は必須課題ですから。ですが、予算がアップしない限りこれはあまり意味を成しません。予算も少なくこの数字にこだわるあまりに、現状は古い情報で用を成さない本まで処分できないまま所蔵し続けるしか無く、昭和・平成初期受入れの本や色ヤケや傷みの烈しい図書が多く含まれることで、生き生きとした図書館にすることができていません。特に小学校においては、授業で学校図書館の本を利用した調べ学習が活発になってきましたが、図書の整備が追いついておらずニーズに応えた十分な図書が提供ができていない実情があります。支援センターの図書で全市を補完できるはずもありません。新しいデータや情報を備えた図書を整備していかない限り、タブレットでの調べ学習に益々傾倒していき、学校図書館が情報センターとしての役割を果たすことは更に難しくなっていくと思います。また読書センターとしてもそうですが、今どきの子ども達は恵まれた環境で育っているため、古く痛んだ昔の装丁や色ヤケ等で変色したような本を手にとろうとはしません。中高学年になるに従いそれは顕著で、学校でも自宅で購入した流行のライトノベル系の本を読んでいる子どもが多いようで、学校図書館に借りに来ることも無く、学校図書館の古い本や名作と言われる本からは遠ざかってしまっているのが現状です。それでも購入した本を読める子どもは読書ができていくわけですが、そうでない子どもは…、家庭の経済状況が読書量を左右することになってしまっているということです。</p> <p>そこで、小学校においては図書購入予算のアップが必須だと思います。が、それが不可能ということであれば、リユース図書の購入を可能にしたり、企業からの寄贈や家庭で眠っている良書を学校図書館に寄贈いただくなど図書の充実積極的に取り組んでいく必要があると思います。これはSDGsの観点からも積極的に検討させていただきたいところです。</p>	1 素案どおり	<p>学校図書館については、文部科学省が示す学校図書館図書標準冊数を維持・向上できるよう予算の確保に努めております。いただいたご意見を参考にさせていただき、引き続き学校の状況を把握して、適切に図書の更新や追加が行えるよう努めてまいります。</p> <p>なお、図書の寄贈につきましては、現在も対応しているところです。</p> <p>ご意見を参考に、学校における読書活動を推進してまいります。</p>
20	16 ・ 30 ~ 32	学校における読書活動の推進	<p>学校においての課題は、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図ることを、どう具体的に実践していくかです。中学校の学校図書館は、国語科と生徒の趣味の読書のための場として認識されている先生が殆んどであることに驚きます。このまま司書教諭と学校司書だけの努力で読書量が改善されていくとは到底思えません。子どもの読書を推進したいとの全教員の共通認識がまず必要ではないでしょうか。全ての教科において、学校図書館や学校図書館資料を活用した授業に取り組まない限り、中学校図書館は『本の倉庫』と『会議室』としての位置づけから抜け出すことはできません。小学校のように盛んに活用されるためには、全教科で取り組む指針や具体的な授業モデルなどの提示が必要になってくるかと思えます。図書が充実しても、この点が改善されない限り結果は同じですし、誰にも触れられない本がただ並んでいるだけの勿体無いものになってしまいます。ここが改善されるまでは、図書購入予算は活用の活発な小学校に偏って配分いただきたいです。</p> <p>また、中学校の学校司書の勤務日数が小学校の半分に留まっていることも要因の一つだとも思います。月に1回か2回の4時間勤務では、先生方との連携などほぼ不可能です。</p> <p>以上、読書量アップについて延べましたが、実際の現場の実情を細かく把握した上で、計画案の見直しをお願いいたします。</p>	1 素案どおり	<p>学校の規模や状況に応じて、配置日を調整できるようにし、効果的に運用してまいります。</p>

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
21	17	(4)家庭・地域、学校、図書館の連携による読書活動の推進	学校での子どもたちの様子を見ていて、子どもの読書離れを感じています。学校・家庭・地域が協力して子どもの読書活動を推進していく取り組みは、必要だと考えます。	1 素案どおり	ご意見のとおり、家庭・地域、学校、図書館が連携して推進してまいります。
22	17	(4)家庭・地域、学校、図書館の連携による読書活動の推進	我が家の子どもたちの読書について、幼いころから読書の大切さは理解していますが、年齢が上がるにつれて読み聞かせから自分で読書するようになり、年々他に興味を持ったり、遊び、習い事、ゲームなどに時間を割かれやがて子どもたちは本を読むことから遠ざかっていきました。今の子どもたちのまわりにはたくさん便利で楽しいゲームやメディアにあふれています。 ゲームや遊びと同じくらい読書が子どもたちにとって楽しいものになることが読書活動が盛んになると私は考えます。例えば公民館の図書室の本は昔からある本で何度も読んだことがあったり、学校の図書室と同じ本が多いように思います。また、図書館や学校の図書室では新しい本や面白い本、人気の本は順番待ちだったりと読みたいときにすぐに読める状況ではないようです。 自分から読書に親しむためにはその世代世代に合った媒体を活用し、子供たちが自ら読書に興味を持つような環境を学校や家庭でも作り出すことが大切だと考えます。	1 素案どおり	子どもたちが好きな本を手にとることができる環境づくりも進めつつ、学校の教育活動の中で自分が好きな本を読む楽しさだけでなく、読書を通じて知らないことを知る、友達と本の面白さを共有する機会をつくり、子どもの読書活動を推進してまいります。
23	17	図書館における読書活動の推進	◇環境づくりについて 17㉟: (3) 図書館における読書活動の推進 13行目 図書・資料の整備 現在、福岡市の図書館では電子書籍の導入をしていますが、児童書に関しては電子書籍よりも紙の本の充実をお願いします。	1 素案どおり	図書の形態は多様化してきておりますが、読書バリアフリー法の主旨と図書館の蔵書バランス等を勘案しながら各種図書の収集に努めてまいります。
24	17	図書館における読書活動の推進	◇機会づくりについて 17㉟: (3) 図書館における読書活動の推進 4行目 おはなし会を実施しています 政府の方針で生活制限が解除されたにも関わらず、総合図書館においては、未だ定期的なおはなし会が実施されていません。定期的なおはなし会の再開を望みます。 また、総合図書館内には「おはなしの家」というスペースがありますが、換気が十分ではないという理由から閉鎖されたままになっています。同じ施設内でそんなに環境が変わるのか疑問です。扉を開け、空気清浄機を使うなど工夫して活用していただきたいです。	1 素案どおり	いただいたご意見は、第4次計画の具体的な取組みを検討する際の参考にさせていただきます。 なお、こども図書館内のえほんの広場やおはなしの家も含めたこども図書館全体の利用の工夫について、さらに検討を重ねてまいります。
25	17	図書館における読書活動の推進 読書活動ボランティア講座の開催	◇人材づくりについて 17㉟: (3) 図書館における読書活動の推進 6行目 読書活動ボランティア講座の開催 現在、総合図書館では、ボランティア初心者を対象として初級講座(読み聞かせ)、中級講座(ストーリーテリング)を実施されています。ボランティアに携わるきっかけとしては有意義な講座だと思いますが、その後のフォローアップ講座がなく残念です。実際に経験して気づくことや悩むこともあります。経験者向けの講座があれば、ボランティア同士の交流の場にもなると思います。フォローアップ講座の実施を検討してほしいと思います。	1 素案どおり	いただいたご意見は、第4次計画の具体的な取組みを検討する際の参考にさせていただきます。
26	21	ブックスタート事業の推進	ブックスタートはコロナ禍で配送になっていると伺いましたが、以前のようにボランティアさん協力のもと、対面で渡すよう場を整えてほしい。	1 素案どおり	「ブックスタート事業の推進」の中で、事業実施についての参考にさせていただきます。
27	21	市の施設等における図書に関する事業等の周知	本館と分館を合わせて11の図書館があり、公民館にも地域文庫が配置されている状況はよいと思うので、そのことの周知が進むと利用率が上がるのではないかと思います。	1 素案どおり	公民館におきましては、地域文庫やスタンダード文庫を活用した事業を実施しており、公民館だよりやブログ等を活用した更なる周知に努めてまいります。 図書館におきましては、34ページ「目標1. 自分から読書に親しめる環境づくり」とおり、ホームページやSNS、印刷物等による図書館利用の啓発に努めてまいります。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
28	21	乳幼児期から大人と一緒に本とふれあう機会づくり	上の子が本を届けて頂き、楽しく読ませていただきました。下の子どももうすぐ届くのではないかと楽しみにしています。今後も継続して取り組んでいただけたらありがたいです。	1 素案どおり	親子が相互に語りかけることの大切さ、楽しさを伝えるため、今後とも事業を推進してまいります。
29	21	ブックスタート事業の推進	定期健診の機会をとらえ、保護者に直接手渡しをしていただけたら、保護者に大切さが伝わると思います。	1 素案どおり	「ブックスタート事業の推進」の中で、事業実施についての参考にさせていただきます。
30	21	乳幼児期から大人と一緒に本とふれあう機会づくり	大人も子どもも読書に親しめる機会づくり ブックスタートボランティアをしていますが、コロナ禍になりブックスタートの絵本は郵送に変わりました。なかなか難しい状況であると思います。乳幼児から親子で絵本を楽しむことの大切さが伝わっているか心配です。	1 素案どおり	「ブックスタート事業の推進」の中で、事業実施についての参考にさせていただきます。
31	21	1.家庭・地域における読書活動の推進	◇機会づくりについて 21㉔: 1.家庭・地域における読書活動の推進 市の施設における図書に関する事業等の周知 2行目 地域文庫を知らないため、利用したことがない。“地域文庫で本が借りられること”や“福岡市内のどこにあるのか”といった情報をまとめたリーフレット等を作成し、掲示したり配布したりしてほしい。	1 素案どおり	子どもたちの読書活動の推進のため、子どもたちが利用できる地域文庫等周知の際の参考にさせていただきます。
32	21	乳幼児期から大人と一緒に本とふれあう機会づくり	◇機会づくりについて 21㉔: 1.家庭・地域における読書活動の推進 乳幼児期から大人と一緒に本とふれあう機会づくり コロナ禍、集団検診がなくなり、手渡していたブックスタートの本は各家庭に郵送になっています。福岡市の茶封筒に添付のお手紙もなしで絵本が1冊だけ入って送られてきている状況もあるそうです。配布資料をよく読んでブックスタート事業があることをご存知の保護者は分かるようですが、そうでない方はなんの目的で送られてきたのかわからないかもしれません。おススメの本や選び方についてのリーフレットも以前は手渡していただいていたので、活用していただくためにも、お手紙を添えていただけたらいいと思います。	1 素案どおり	絵本を郵送する際は、ブックスタート事業としてお送りしている旨を記載した案内文書とともに、お勧めの絵本や選び方についてのリーフレットを同封しております。
33	22	学校における読書活動の推進(目標2) 読書を楽しむ、楽しさを共有する、楽しみ方を知る機会づくり	本の読み聞かせなど本に親しむ機会は充実してきているように思うが、自分で字を読む機会を求められなくなっているように思う。	1 素案どおり	第4次計画では、子どもが、自ら学校図書館へ足を運びたいよう、学校の教育活動の中で、読書を楽しむ、読書の楽しさを共有する、読書の楽しみ方を知る機会を充実させていくことを重点と考えております。いただいたご意見を参考に、計画を推進してまいります。
34	22	読書を楽しむ、楽しさを共有する、楽しみ方を知る機会づくり	第3次計画では朝読書の取り組みや調べ学習など学校図書館活用が明記されていましたが、今回はありません。取り組みの具体的な記載が少ないと思いました。	1 素案どおり	第4次計画では、「学校図書館を活用した教科との関連を図る取り組み」として示しています。各学校のよい取り組み等共有しながら、実践が広がるよう努めてまいります。
35	23	家庭・地域、学校、図書館等が連携し課題解決を図るためのICTを活用した体制の強化	p23「4.家庭・地域、学校、図書館の連携による読書活動の推進」について 子どもに、一人一台端末が配布されているとのことなので、この端末から、福岡市総合図書館の電子図書館が利用できれば、どの子どもも等しく、電子図書館を利用することができます。端末を自宅に持ち帰り、より多くの時間を読書に充てることできるように推進してほしいです。近くに図書館がない子どもも、電子図書館ならば等しく利用することができるので、電子図書館で読める本の充実もお願いしたいです。	1 素案どおり	ICTを活用した連携方策を具体的に考えていく中で、一人一台端末と電子図書館の連携や資料の充実も1つの方策として検討してまいります。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
36	27 31 35	○市の施設等の環境整備の充実 ○学校図書館の環境整備の充実 ○図書館の環境整備の充実	年々減少している図書購入費を確保してほしい。子供の発達段階や障害がある子ども、外国語を母語とする子どものニーズに合った図書の収集だけでなく基本とその整備も難しくなっている。	1 素案どおり	学校図書館については、文部科学省が示す学校図書館図書標準冊数を維持・向上できるよう予算の確保に努めております。いただいたご意見を参考にさせていただき、引き続き学校の状況を把握して、適切に図書の更新や追加が行えるよう努めてまいります。また、図書館においても、ご意見を参考にしながら図書購入費を含めた予算の確保に努めてまいります。
37	28	子どもの読書活動を支える人材づくり・講座の充実	p28 1. 家庭・地域における読書活動の推進 3. 人材づくり 身近な公民館で本にめぐりあうためにも、「読み聞かせ」だけに特化せず、「ボランティア」を育成する講座(ボランティア論・公民館のこと・めざす子どもの読書活動・子どもの発達・実践報告)が必要。またその講座内容を公民館職員も共有してほしい。	1 素案どおり	いただいたご意見は、第4次計画の具体的な取組みを検討する際の参考にさせていただきます。
38	28 39	家庭で親子が読書を楽しむ機会づくり p39 共読の推進	本に関心を持ち、読書する本当の楽しみを知るためには、幼いころからの環境が影響するように思います。ですから子どもを育てる大人への啓発であるこの取組は本当に大切だと思います。ここ2、3年小学1年生に絵本を渡そうとしても手を振って「いや、ぼくはいりません」と言って拒まれるということが起こるようになりました。その後のいろいろなやりとりから、身近に本がない、本というものになじみがないからこんなふうになったのではないかと推測しています。まわりの大人への啓発が大事だと切に思います。この計画が推進されることを期待します。親と一緒に本を読んだ、友達と一緒に本を読んだ、ということはその子どもを支えるいい思い出になると思います。	1 素案どおり	P22第4次計画では、読書を通じた友達や保護者、地域の人、先生等人との関わりによって、子どもたちの本の世界をさらに広げることを目指してまいります。また、P28計画各論「家庭で親子が読書を楽しむ機会づくり」にありますとおり、保護者に啓発するとともに、親子で読書を楽しむ機会をつくっていきます。いただいたご意見は、家庭教育支援講座の実施にあたり参考とさせていただきます。
39	28 36	障がいのある子どもへの読み聞かせの充実	保護者が連れていきやすくなるよう、回数、時間、場所を検討していただきたいです。	1 素案どおり	「障がいのある子どもへの読み聞かせの機会」をつくる際にご意見を参考にさせていただきます。
40	30	学校における読書活動の推進(目標1) 学校図書館環境整備の充実	①「学校図書館図書標準」の100%達成を図るため・・・ 学校図書館図書標準の100%維持を図るために、情報や出版年が古い本を捨てられない。古い本は子どもたちは手に取らない。段ボールに詰めて保管しているが、狭い図書館のスペースを圧迫する。図書標準に縛られず、情報の古い本は捨てて、新しい情報にあふれた学校図書館を目指したい。	1 素案どおり	学校図書館では、「学校図書館図書廃棄基準」(全国学校図書館協議会制定)を参考にし、本を廃棄する際、蔵書の更新を行い、蔵書管理を行うよう進めております。各学校において、適切な蔵書管理となるよう努めてまいります。
41	30	学校における読書活動の推進(目標1) 学校図書館環境整備の充実	②学校図書館の環境整備の充実 ・図書予算が生徒数を根拠に設定されている。生徒数の少ない学校は図書予算が少なく、新しい本も十分に供給できないので、古い本が多く並んだ図書館となっている。一方生徒数の多い学校の図書館では、新しい図書が取揃えられている。両者の学校図書館の充実度に大きな差が生まれている。 ・本が多く読まれる小学校のほうが中学校より図書予算が少なく設定されている。小学校のうち本を読む習慣をつければ中学校では更に読書離れが進む。中学校の学校図書館よりも小学校の学校図書館に図書予算を多くつけるべきだと思う。	1 素案どおり	学校図書館については、文部科学省が示す学校図書館図書標準冊数を維持・向上できるよう予算の確保に努めております。いただいたご意見を参考にさせていただき、引き続き学校の状況を把握して、適切に図書の更新や追加が行えるよう努めてまいります。
42	30	学校における読書活動の推進(目標1) 学校図書館環境整備の充実	・中学校図書館の本の廃棄をする際、状態がよく小学校で使用出来る本を捨てることがある。(絵本など)近隣小中で協力して、廃棄される本を小学校に回せるようなシステムを作ってほしい。	1 素案どおり	学校図書館では、「学校図書館図書廃棄基準」(全国学校図書館協議会制定)を参考にし、本を廃棄する際、蔵書の更新を行い、管理を行うよう進めております。ご意見につきましては、今後の取組みの参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
43	30	学校における読書活動の推進(目標1) 学校図書館環境整備の充実	コロナ禍で小笹小学校では貸出冊数が倍以上になり、図書館はいつも子ども達が本を借りに来ています。人気のある学習漫画などはボロボロになるのを修理して貸し出しています。一方、中学校では本を借りる子が少なく、きれいなまま廃棄される本もあると聞きます。近隣の小中で連携して廃棄本を小学校に譲るシステムを作っていただきたいです。	1 素案どおり	学校図書館では、「学校図書館図書廃棄基準」(全国学校図書館協議会制定)を参考にし、本を廃棄する際、蔵書の更新を行い、管理を行うよう進めております。ご意見につきましては、今後の取組みの参考にさせていただきます。
44	30	学校における読書活動の推進	また、小学校では現場の司書教諭1人に負荷がかかり過ぎているとも感じます。特に低学年担任であれば、休み時間も無く、忙しい日々を送りながら昼休みの図書委員への指導見守りから、数々の学校図書館運営まで担っています。「司書教諭資格を取らなければ良かった」とのつぶやきも、かつて聞こえてきました。学生時代にまじめに取り組んで取得した資格取得を後悔させるほどの体制に問題は無いのでしょうか。その忙しさのせいで、大半が学校司書任せになってしまっている現状も、致し方ないこととも思います。「司書教諭の資格取得の促進」も計画に明記されていますが、そのくらい余裕も無い状態で日々頑張っている司書教諭に更なる資格取得を課すにはそれなりの待遇が必要かと思えます。またそんな余裕の無い司書教諭を見ながら他に積極的に司書教諭の資格を取得したいと思う教員がいるとも思えません。働き方改革が叫ばれる昨今、司書教諭の待遇改善も課題かと思えます。	1 素案どおり	学校図書館の運営は、校長のリーダーシップのもと、司書教諭と学校司書が連携して行うこととしております。司書教諭だけの負担とならないよう、努めてまいります。
45	30	学校図書館の環境整備の充実	★環境を整えるには専門知識をもつ学校司書を1校にひとり専任で古い資料の除籍選定、読書・学習に必要な資料の選書や購入またその資料をどう配架するか、また障がい等ある子どものニーズにあった読書環境を充実するには専任の学校司書でないと不可能。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
46	30	自分から読書に親しめる機会づくり	2.機会づくり ★教科に関連した取り組みの選書や紹介等や、発達段階や子どものニーズにあった読書の機会をつくるには、専門知識が必要となる。兼務によりいたりいかなかったりすることで、取り組みや読書の機会をつくるチャンスが減る。時間がとれない。 学年が上がるにつれ効果的な学校の取り組みや本を手渡す機会(直接間接両方)を増やすには、ますます専門専任の学校司書が必要となる。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます
47	30/ 31	学校における読書活動の推進(目標1) 学校図書館環境整備の充実	【原文】学校における読書活動は、学校図書館を中心として行われています。学校図書館には、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割があり、組織的、計画的に運営していく必要があります。そのために、「 <u>学校図書館図書標準</u> 」達成 ^① や <u>学校図書分類に基づいた</u> ^② 学校図書の適正配備に努めます。 【変更案】学校における読書活動は、学校図書館を中心として行われています。学校図書館には、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割があり、組織的、計画的に運営していく必要があります。そのために、「 <u>学校図書館図書標準</u> 」達成や <u>計画的な図書の更新、学校図書館への新聞の複数紙配備と学校司書の配置拡充を図ることを目指します。</u> ^① また、「 <u>標準配分比率</u> 」(「 <u>学校図書館メディア基準</u> 」公益社団法人 全国学校図書館協議会)を参考とした ^② 学校図書の適正配備に努めます。 ① そのための手段として、[文部科学省 第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」に基づく経費に係る地方財政措置]の活用をしていただきたい。 ② 「学校図書分類」という分類はないのではないかと確認していただきたい。学校図書館の分類は、公共図書館と同じ「日本十進分類法(NDC)」を使用している。上記の原文は、「 <u>学校図書館メディア基準</u> 」(公益社団法人 全国学校図書館協議会)における蔵書の「標準配分比率」のことを指しているのでしょうか。根拠を明確にいただきたい。	2 修正あり	①「計画的な図書の更新」について追記します。 ②「学校図書館メディア基準」(公益社団法人 全国学校図書館協議会)の標準配分比率を参考としたに修正いたします。 その他のご意見につきましては、今後の施策検討の参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
48	30/31	学校における読書活動の推進	学校図書館図書標準とはどのようなもので現在、どのくらい達成されているのでしょうか？ 学校図書の見直しが行われ、どのくらい本の入れ替えを行う予定のものなのかわかりません。	1 素案どおり	「学校図書館図書標準」は、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として文部科学省が定めているものであり、学級数に応じた蔵書冊数が示されています。令和4年7月に行った調査では、学校図書館図書標準を小学校83.3%、中学校76.8%が達成しています。蔵書の購入・廃棄については、「学校図書館廃棄基準」を参考に、各学校の実態に応じて進めています。
49	30・31	学校図書館の環境整備の充実	学校図書館の環境整備の充実 文科省が令和4年から令和8年まで第6次「学校図書館整備等5か年計画」を策定し、学校司書の配置をおおむね1.3校に1名の配置となっている。福岡市もこれに近づけるように努力してほしい。 福岡市は現在4、5校に1名の配置である。 私は平成17年から学校司書に採用され第1次福岡子ども読書活動推進計画から学校現場で学校図書館を見てきた。平成17年には15人で2校担当し、わずか30校にしかいなかった学校司書が今や全校に配置され以前ほどの格差はなくなった。だが実情は大変問題を抱えている。今年度、長年勤めた学校から異動して特に感じた。今までも学校司書がいたにも関わらず問題が山積みであった。前任者に聞くと勤務日数が足りず問題だと認識しながらも手がつけられなかったとのこと。1校に関わる日数が少なすぎる。これにつきる。 また、学校司書のスキルを積むシステムが存在していないことも大いに問題がある。学校図書館支援センターをうまく利用できないものか。 さらに、司書教諭の力量にも格差があるため、ともに働く中で仕事が思うようにならない。学校司書と司書教諭、図書担当者の研修充実させていくことに期待したい。	1 素案どおり	P32 子どもの読書活動を支える人材づくりとして、教員や学校司書の研修を充実させることとしており、ご意見は研修の際の参考にさせていただきます。 また、学校司書についても、ご意見を参考に配置について検討してまいります。
50	30～32	学校図書館の環境整備の充実	2.学校における読書活動の推進について 1.環境づくり ★環境整備の充実をはかるためには予算が必要 10,000冊の図書標準の学校(小学校17クラス9,960冊 中学校11クラス10,160冊)の図書が10年使えると考えると(社会の変化や使用頻度により、実際には10年もたない)1,000冊×2,000円=2,000,000円 (単価の2,000円は全国学校図書館協議会による小学校1,963円中学校2,062円を参考)必要となる。 またクラス数が少なくても読書や学習に必要な冊数は大きく変わらないと考える。	1 素案どおり	学校図書館については、文部科学省が示す学校図書館図書標準冊数を維持・向上できるよう予算の確保に努めております。いただいたご意見を参考にさせていただき、引き続き学校の状況を把握して、適切に図書の更新や追加が行えるよう努めてまいります。
51	31	学校における読書活動の推進(目標3) 学校司書の効果検討	検討法のひとつとして、数校をモデル(実験)校に指定して、学校司書を専属で配置していただくことができないかと思えます。 学校司書は子どもの読書活動推進に重要であることは勿論ですが、授業支援にも大きな役割を果たせる存在です。学校図書館に常時司書がいると、どのような効果が現れるかを検討していただきたいと願っています。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
52	31	学校における読書活動の推進(目標3) 学校司書の効果検討	学校司書をぜひ増やしてください。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
53	31	学校司書の効果検討	学校司書は43人ですが福岡市の学校数は小学校145、中学校69です。1人あたり4～5の小～中学校を担当している本の整理だけで手一杯だという声を聞きます。図書館の本を利用した朝の読み聞かせなどはできていないと思えます。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
54	31	学校司書の効果検討	学校司書の効果検討では人員が不足している状況をどのように改善されるのか明記されていません。子どもたちに本を手渡すということを考えれば1人あたり小1～2、中学校1校を目標としていただきたいと思えます。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
55	31	学校における読書活動の推進(目標3) 学校司書の効果検討	<p>第4次具体的施策「学校司書の効果検討」について、「効果検討」の文言は適切とは思えない。代替案として「学校司書の研修の充実」としてはどうか。</p> <p>(理由)</p> <p>この項目は第3次計画とほぼ変更なし。第3次でも「効果検討」とい文言が使われている。「効果を検討する」というと、効果があるかないかわからないものを調査し、検討して、どのような効果があったか、もしくはなかったかを明らかにするといいニュアンスに受け取れる。学校司書については、第2次計画以降ずっと成果と課題を検討すると言いつつ続けているが、どう検討され、その結果どのような改善がされたのか見えず、また同じ表現なのかと残念に思う。20年前からすると、学校司書は少し増員されたとはいえ、まだ複数校の兼務は変わらない。予算の関係で「学校司書の配置の充実」とは書けない事情なのは理解できるので、現状の人数で最大の成果が得られるよう「学校司書の研修の充実」としてはどうか(方向性の文言とも反しない)。人の配置が潤沢になれば、大部分の課題は解決するので、予算要求は引き続きお願いしたい。</p> <p>(参考)福岡市で最初に策定された計画(平成17年)で学校司書の成果として、すでにこの時点で以下の内容が記載されている。</p> <p>p28<学校司書の配置の充実>「平成15年までの研究成果として、学校図書館の活性化、児童生徒の読書活動の充実などの成果が報告されています。今後、学校司書の配置の充実を図り、児童生徒の読書活動を一層推進します。」</p> <p>第2次p18<学校司書の効果的配置の実施>「今後、その成果と課題を十分に検討し、効果的な配置に努めていきます。」</p> <p>第3次p30<学校司書の効果検討>「現在の配置体制における活用方法と連携のあり方について成果と課題を検討し、今後の読書活動の推進に活かします。」</p>	1 素案どおり	「学校司書の効果検討」については、第3次計画の令和元年度より、小規模校を除く全ての小中学校に学校司書の配置できる体制づくりを整備してまいりました。それを受け、中学校への配置日も1~2週で1日と増えています。学校規模や状況に応じて配置日を調整できるようにしております。第4次計画においては、学校司書の業務内容と司書教諭との連携の体制など検討しながら、研修の充実を図ってまいります。
56	31	学校における読書活動の推進(目標3) 学校司書の効果検討	「学校司書の配置」今回の改訂で、「障がい等のある子どものニーズ」は重点となっているが、特別支援学校への学校司書の配置も検討していただきたい。	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
57	31	学校における読書活動の推進(目標3) 学校司書の効果検討	「学校司書の活用方法」 学校司書は人なので、人に対して「活用」を用いるのはふさわしくない。「活用方法」を削除してはどうか。もしくは「職務内容」に置き換えてはどうか。	1 素案どおり	「学校司書の活用方法」とは、学校の読書活動を推進する上で、学校司書をどのように活用するのか、という意味で記載しております。
58	31	学校における読書活動の推進(目標1) 学校図書館の環境整備の充実	<p>学校図書館の環境整備の充実「学校図書館図書標準」達成や学校図書館分類に基づいた学校図書の適正配備本の購入予算をきちんと毎年とっていただけることは大変ありがたいことと思います。けれど、今は蔵書より「人」の配置に重きを置く時期がきていると思います。毎年の予算を使い切るのに司書教諭の先生方は大変苦勞されています。特に中学校の先生は、頭を悩ませておられます。その解決策として子どもに選ばせられることも多いです。するとライトノベルや映画やゲームのノベライズなどがたくさん納入されます。または大人の小説などを買われることもあり、「もったいないなあ」とため息がでてしまうことはよくあります。そして、買ったなら安心とばかり読まれずに書架に眠っている本がとて多いです。また学習用に揃えられた本は開かれることなく書架に収まっています。読み物以外の本の購入を提案したら「調べ学習はしないから買って…」と言われることもあります。おそらく蔵書達成率は大部分の学校で満たされてきているのではないのでしょうか。図書の購入予算は少し抑えてでも、本を手渡す「人」の充実のほうに予算をとってください。本を知っていて、適切な時に渡す人がいないと、せっかく多額の予算を使って本を揃えた本も死蔵されるだけです。全校に司書は配置されていると公言されていますが、週に1回かそれ以下の勤務では、思うように本を薦められないことが多いです。授業に使われる本を揃えるにしても、タイミングが合わずに本無しで授業されたこともよくあります。ほとんど顔を合わせない子どもたちがたまたま図書室に本を探しに来た時に居合わせて本を出して見せても、手を出してくれないこともあります。信頼されるほど付き合いがないからなあと悲しくなります。もう少しその図書館にいる頻度が高ければもう少し親しくなることができるだろうと思います。</p>	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
59	31	学校司書の効果検討	<p>学校司書について、読書量を上げるため助力するのに時間的余裕が無いのが実情です。3次計画の成果として、「学校司書により、蔵書の整理・季節を感じられる図書室の環境整備ができた」とあります。小学校で週に1回、中学校で2週に1回では、通常はそれだけの成果が限界といったところでしょう。実際4時間の勤務では、図書の整理・破損本の修理・環境整備だけであつという間に4時間が経ってしまいますが、それだけでは読書量のアップにはなかなかつながりません。いかに読書量アップにつなげるか、私なりに取り組んできたものを列挙してみますと、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの職員研修(図書室の蔵書数や利用状況の報告、図書室のルールや使い方、新任教員への説明、授業連携や購入アンケートなど) ・学校全体で学校図書館について考え、全員で読書量アップにつなげるよう取り組むため ・図書オリエンテーション(学年に応じた利用教育、分類についての学習、著作権、読み語り、ブックトークなど) ・小学校は全学年・中学は1年……2022年度は計約80クラス ・授業で活用する図書の選定と貸出準備 ・新刊購入リスト作成(先生方や生徒のアンケートも参考に) ・全体の蔵書に精通している学校司書が関わることで、図書配分や弱点を補うように図書を増やすことが出来る。 ・新刊購入のための学校での選書会の実施 ・図書委員のやる気高め、全職員が図書館運営に積極的に関わっていただく意識を高めるため ・新刊受入(新刊マークの貼付や紹介掲示、寄贈本の図書装備など) ・廃棄基準にある図書の積極的除籍(生きた図書室にするため、判断に悩むものは支援センターに相談) ・図書委員の指導(貸出返却の正確な作業・図書整理・セレクトボックス作成・読書週間取組み支援)・読書クラブの支援、準備(読み語り、ポップ製作掲示、ビブリオバトル、しおり製作準備) ・分類を理解して常に委員の力で図書整理が出来るようになるため ・大規模修繕に伴う作業(図書移動準備、書架移動立会い、再配置のためのレイアウト作成、書架配置、技術吏員への作業依頼、図書移動、配架など、限られた時間の中での厳しい状況で、かなり無理をしてなんとかやってきたものです。できればもっと子ども達にゆっくり関わりながら、読書の楽しさを伝えていきたいと思いますが、時間的に余裕が無く、ままなりません。ただ以上の努力で、読書量や貸出し冊数はコロナ禍でもやっと上がってきました。学校司書が学校司書らしい働きができることが、本離れを食い止める最善の策ではないかと思えます。いかに資質を備えていたとしても、全学校司書がこれらの取り組みを実践するためには勤務時間の不足という壁が大きく立ちはかかるのです。 ・前にも中学校の時間不足を述べましたが、十分な働きを学校司書が行うためには、学校司書の1人あたりの勤務時間を増やすか、学校司書の人数を増やして勤務校を減らすことで1学校あたりの勤務時間を増やしていくしかないと思えます。長年問題となってきたことでもありますが、ここで子どもの読書活動推進に真剣に向き合う姿勢を、この点からも示していただきたいと願っております。 	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
60	31	学校司書の効果検討	<p>学校司書の効果検討において、各仕事内容について司書のスキルのレベルアップのための研修、仕事内容にみあった勤務時間についても検討していただきたいと思えます。</p>	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
61	31	学校司書の効果検討	<p>目標3 子どもの読書活動を支える人材づくり ○教員や学校司書の研修の充実 教員や学校司書の研修の前に学校司書の雇用の形態を見直すべきだと思ふ。現在のように1人で4、5校担当するのは良い仕事はできない。一人一校とまでは言わないが、せめて2校とすべきだ。1つの学校にじっくり取り組む時間がとれれば教師や子どもたちとつながることができ、子どもの読書活動を推進する大きな力となる。「いつ行っても図書室に司書がいる」ことは本を身近に感じる第一歩となる。今のままでは、優秀な司書がどんどん他都市に流れてしまう。今のような学校司書の配置では「すべての学校に司書を配置している」とは言えない。</p>	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
62	31 32	学校司書の効果検討	<p>「学校図書館は、ただ本を貸し出すだけの場所ではありません。子どもの学びをサポートする為の大切な役割があります。新学習指導要領には「主体的・対話的で深い学び」の実現に、学校図書館の活用が期待される、としています。「学校図書館の活用が期待される」とありますが、福岡市の学校図書館の現状を見ると、学校司書は、専任ではなく複数校兼務です。これでは「子どもの学びをサポートする」という本来の目的を遂行するには無理があるのではないのでしょうか？市全体の学校司書数43名。1日4時間勤務、となっています。市内小中学校の、学校数・児童生徒数から考察するに、司書数、勤務時間共に、無理があると言えないのでしょうか？加えて、学校司書として求められる仕事内容をこなそうとすればするほど、4時間という時間との戦い、既にカオス状態、正直無理です。司書さんたちの日々は、精神的、体力的に考えても、「複数校勤務というプレッシャー」さらには、日々常勤であれば先生、教師とのコミュニケーションもスムーズに、1人1人の特色や進み具合、どんな本に関心があるか等、それなりに個々の児童・生徒の特長を掴み、アドバイスもでき、互いの信頼関係も育まれていくでしょう。児童 生徒からみれば、教師とは異なった距離感から調べ事の依頼や話を聞いてもらいたいということもありましょう。ちょっとした会話から求める資料を提供もできましょう。そうした児童・生徒の会話から司書として選書のヒントや書架の配置など目まぐるしく頭の中で回転している事でしょう。「限られた日数・限られた時間内」では、常に距離感が付きまとうのではないのでしょうか？相手は児童 生徒。年代によっては、そうした司書側の時間とのせめぎ合い、都合は理解できません。日々の、それ故、限られた時間、空白期間を埋めるための算段しながら図書館内の整備や書架の整理、と司書として真剣であればあるほど、多忙であり、児童・生徒とちゃんと向き合えない状況に苦悩を深めている実態がある事に気づきます。複数校勤務であれば、接する学校関係者・児童生徒・学校図書館事情・校内事情・地域事情、事情が異なります。同じということはありません。その緊張感は如何ばかりか！</p> <p>一方で全校配置の自治体もあります。宇美町・粕屋町・柳川市など全校配置です。福岡市でも、是非、全校配置をお願いしたい。無理なら1日4時間、という時間を延長し、せめてある程度のゆとりをもって児童生徒との対応ができる時間延長が必要ではないでしょうか？複数校勤務では、空白が生じる留守期間の図書室整理だけで時間は取られてしまいます。1校であれば、全てが把握できています。普段通り登校、子ども達の顔ぶれも、先生方や事務室関係者とのやり取り、特段変化はない。日常はスムーズに運びます。が、1週間に1日ではとてもそのような余裕はないでしょう。司書にとっては1週間分の「しなければならぬ事務や、書架の整理・勉強の進み具合によっては資料を集めるなど、本が好き、というだけでは受け止められない環境下であっても、尽力しています。が、複数校であればあるほど、空いた期間、多くの悩みを抱えたり、人恋しい思いを抱えている子等は「先生に聞いてもらいたい」と寄ってくる子もいるとのこと。学校司書はそうした子をも逃さず、本への誘いの1つとして話を聞きながらそっと見守る。そうした事例が現実が増えていきます。「そこまで学校司書が負うことは無い。職務外だ」と言い切れない現実が、今あります。保健室の先生とも似通っています。学校司書として”頑張っても、頑張っても”追われるような日々」「図書館への熱い思い・子ども達への思い」がいつか「燃え尽き症候群」とならないか？案じられます。</p> <p>優秀な方方だけに、人としての余白部分があってこそ、子どもや先生方の期待に応え得る学校司書としての責務を果たせるでしょう。複数校兼務・1日4時間の勤務体制は無理です。1校に1人の学校司書を実現してください。</p>	1 素案どおり	いただいたご意見につきましては、学校司書の配置検討の際の参考にさせていただきます。
63	31 ~32	学校における読書活動の推進	<p>第2章計画各論 1. 子ども読書活動推進 2. 学校における読書活動の推進 目標3 子どもの読書活動を支える人材づくり p30~32にかけて学校における読書活動推進についての目標や具体的な施策についてどれも欠かせないものだと理解しています。しかしながら、1つの学校において司書教諭や司書が携われる時間は限られており、具体的にすべての目標に取り組むことは難しいと思われます。</p>	1 素案どおり	学校図書館教育については、学校長の方針のもと、司書教諭と学校司書、学校図書館ボランティア等が連携し、組織的な学校図書館教育を行っていくべきものと考えております。学校が設定した指導の重点を踏まえて取り組みを進めてまいります。
64	32	学校における読書活動の推進(目標2) 子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり	<p>【原文】 学校において、小学校の低学年、中学年、高学年、中学校、高校と発達段階に応じ、読書習慣を身に付け、読書の幅を広げることができるよう、読書活動を推進していきます。</p> <p>【変更案】 学校において、小学校の低学年、中学年、高学年、中学校、高校と発達段階に応じ、読書習慣を身に付け、読書の幅を広げることができるよう、一斉読書やブックトーク、ビブリオバトル、POPづくり、教職員や児童・生徒のおすすめ本紹介展示などといった読書活動を推進していきます。</p> <p>・・・具体的な読書活動推進内容を記載することで、より明確な計画になり、周知されるものとする。</p>	2 修正あり	(p32)「読書活動を推進していきます。」の前に「読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、ビブリオバトル、教職員や児童・生徒のおすすめ本紹介など」を追記いたします。
65	32	学校における読書活動の推進	<p>コロナの影響で読み聞かせボランティアの活動が制限されていることで本に親しむ機会が減っていると思います。オンラインを活用して読み聞かせが再開・充実されるといいと思います。</p>	1 素案どおり	学校における読書に親しむ機会の充実に向けて参考にさせていただきます。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
66	32	学校における読書活動の推進 (目標2)障がい等のある子どもの本と出会う機会の充実	障がい等のある子どもが読書に親しむ機会づくり 市の点字図書館で音訳ボランティアをしています。私が所属しているのは別団体のことですが、特別支援学校の子どもたち向けの音訳をしているグループで、年々音訳できるボランティアの人数が減っていると聞きました。「音訳者」という存在を知らない人はたくさんいます。もっと広く知ってもらい取組みがあると、障がいのある子どもに本が「読んで」もらえるようになるのではないかと思います。	1 素案どおり	障がい等のある子どもたちが、より読書に親しむことができるように、音訳ボランティアの周知や活用促進について検討してまいります。
67	32	子どもの発達に応じた読書に親しむ機会づくり	グラフはいろいろなところで見ますが、この内容はどうなんだろうという心配になります。「読み上げ冊数」の調査で読んだ本を見ると、はたして「読んだ」として教えていいのだろうかという心配になるような内容です。一昔前は、数名でも「読書」といえる書名があがっていましたが、年々その内容は心もとなくなっています。もちろんほんの一部の学校でしか確認することはできませんが、本当の意味での読書量がしっかりと増えていくような働きかけをしたいと思って日々努めております。本当の意味での読書を知るには、本に通じた大人の存在が不可欠です。教員、司書、ボランティアの研修に力を入れてくださるとのこと、期待しています。 本当の読書の楽しみを知ったら、年齢が上がっても本離れはしないと思います。高学年で読書量が減るのは「眺めるだけの読書」しか知らないのが一因だと思います。浅い楽しみとしてしか経験していなかったら、貴重な時間をそんなものに費やすことはしなくなるのは当たり前だと思います。本当の読書の楽しみが身に付いた子どもは年齢が上がって勉強や部活などで読書できる時間が足りなくて本から離れることはあるかもしれませんが、いつかは読書をする時間を得ようになるだろうし、本好きの子は5分でも時間を見つけては本を読むという例はいくつも聞きつけています。推進計画を中断することなく続けていかれること、毎回よかったと胸をなでおろしています。	1 素案どおり	いただいたご意見を参考に、計画を推進してまいります。
68	32	教員や学校司書の研修の充実	3.人材づくり ★学校司書配置の効果検討と研修をを継続的にこない、課題改善のための研修実施を希望 ①毎年毎年ぶつぎれのその場かぎりの研修ではなく、見通した計画②「福岡市のめざす学校図書館像」を感じさせる講師による研修③学校司書がいつでも活用できるよう記録を共有できるシステム これらを具体的にすすめる必要がある。また司書教諭の研修も課題検討しおこなうことが必要。	1 素案どおり	いただいたご意見を参考に、学校司書の効果的は配置について検討してまいります。 教員に対する研修については、今後も継続して実施し、課題や効果を検討してまいります。
69	32	教員や学校司書の研修の充実	目標3 子どもの読書活動を支える人材づくり ○教員や学校司書の研修の充実 司書教諭が多忙なものわかるが、名前だけの司書教諭でも困る。蔵書点検を司書に丸投げということもあった。多忙な中でも図書室、司書としっかりかかわっている司書教諭もいる。毎日、図書室に足を運べるよう授業時数も少しは考えて欲しい。横のつながりを大切にしたい課題を解決していくような研修をする必要である。子どもたちの本の世界がもっともっと広がりますように。	1 素案どおり	学校図書館担当者や司書教諭が図書館業務に携われるよう校務分掌等の工夫に努めるよう学校に働きかけてまいります。また課題に応じて研修の内容を充実させてまいります。
70	34	図書館における読書活動の推進	私は第1次子ども読書活動推進計画の策定に図書館おはなしボランティアとして参加しました。第3次計画が策定されてから子どもたちの読書をめぐる状況の大きな変化としては新型コロナ感染があります。コロナ禍での子どもたちは小学校1～3年生の低学年の子どもたちが新入学時に学校図書館、公共図書館に出会っていません。また、公共図書館閉館により、多くの子どもたちが十分に絵本、本を手にすることができていませんでした。総合図書館で行われていた赤ちゃんおはなし会、日曜おはなし会も3年間再開されていません。このような状況は今後も起きることが考えられます。コロナ禍でもできる子どもたちの読書について福岡市全体として今後の対策を検討していただきたいと思います。	1 素案どおり	第4次計画の施策を実施していくうえで検討してまいります。
71	34	図書館における読書活動の推進	図書館の環境整備についてはコロナ禍で利用できないおはなしの家の見直し、日曜おはなし会の再開に向けて子ども図書館全体のスペースをどのように利用するのか検討していただきたいと思います。	1 素案どおり	図書館の具体的な環境整備の取組みにつきましては、第4次計画の施策を実施していくうえで検討してまいります。 なお、おはなしの家も含めた子ども図書館全体の見直しや現状での利用の工夫について、さらに検討を重ねてまいります。

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)素案に対する意見及び意見に対する福岡市の考え方

番号	本編のページ	項目	意見の内容(原文)	意見への対応	意見に対する考え方(公表案)
72	34	図書館における読書活動の推進	市が始めた電子図書館に力を入れる。これを起爆剤に福岡市図書サービスを拡大盛んにしろ。電子図書のメリットを活かすこと、移動、手続き、管理維持に圧倒的メリットあり。例えば1時間貸しも可能。1冊を1人でも多くの人に読んでいただける。貸し出しもかなり回転させられる。何日も貸し出させない。20人待ちとかさせるな。マーケティング商売を勉強しろ、公務員魅力がなくなる。イメージが悪くなる。とにかく本を手にとってもらう。雑誌でも人気作品目玉をだす。ここから勝負。関連本を読んでいただいて利用回転率をあげる、ここが司書の腕のみせどころ。インフラもほぼ全世帯PCスマホあり。無ければ学校にでも1万2万のタブレット置く。学生優先枠 例 昼休み放課後になりやすくする。一時貸しなら他市民との競争を避けられる。このように機会を与えること、現に誰もとっていいほど読んでいない。現実。電子になれば在庫リスクが減る。百道まで行かなくても東西南北区、志賀島、小呂小でも誰もが簡単に読める。それも回転が上がればいつでも読めるコストもカットできる。図書利用の改革、ラストチャンスと考える。このことを強く提案したい。生徒市民の文化レベル向上になると考える。ICTと下手に横文字使うのをやめろ。いみがない 当局者は反省するように。	1 素案どおり	こども読書活動の推進におきましては、一人一台端末(タブレット)と電子図書館の連携や資料の充実なども1つの方策として検討してまいります。
73	35	図書館(目標1)図書館の環境整備の充実(目標2)大人も子どもも楽しめる読書に親しむ機会づくり	甥っ子と一緒に図書館を利用することがあります。大人はもちろんですが、子どもたちが読書に親しめるように、本を増やしたり読み聞かせの機会を増やしたりしていただけたらうれしいです。	1 素案どおり	図書館の環境整備の充実や大人も子どもも楽しめる読書に親しむ機会づくりを具体的に検討する際の参考にさせていただきます。
74	36	読書活動に関わる人材への活動の支援	私は30年近く、小学校での読み聞かせや総合図書館での日曜おはなし会、こどもの日、クリスマスおはなし会に参加し子どもたちの成長と読書活動を見てきました。総合図書館で毎年開催されているボランティア養成講座にも福岡おはなしの会として参加しています。第1次計画策定時と比べボランティア養成講座に参加される方で学校での読み聞かせを行っているという方が多くなりました。また講座を受けただけで活動の場がないという声も聞きます。読書ボランティア活動者向けの支援を行い、地域のカも借りて子どもたちに本を手渡すという取り組みを進めていただきたいと思います。	1 素案どおり	いただいたご意見は、読書活動に関わる人材への活動支援を具体的に検討する際の参考にさせていただきます。なお、読書活動ボランティアの方々への支援につきましては、地域文庫マップを情報共有や相互交流にご活用いただくため内容の見直しを進めるとともに、関係機関との連携に努めてまいります。
75	38	家庭・地域、学校、図書館の連携による読書活動の推進	「ICTを活用して、読書に関する情報や本の魅力を発信、共有し・・・」 ICTを活用し、電子書籍をぜひ入れてほしい。例えばポプラ社の提供する「yomokka(ヨモッカ)」、小学館が昨年出版した小学館世界J文学館など、本そのものが電子媒体で読めるように環境を整えてほしい。読書に関する情報や、本の魅力を発信し、それが子どもに伝わったとしても、その本自体がすぐに手元に無ければ子どもの興味はそがれてしまい、別の娯楽に取って代わられてしまう。	1 素案どおり	図書館では、令和3年3月に電子図書館システムを導入し、電子書籍の提供を開始しており、ICTを活用した連携方策を具体的に考えていく中で、学校と電子図書館との連携も1つの方策として検討してまいります。
76	38	家庭・地域、学校、図書館の連携による読書活動の推進	子どもの読書活動を支えるしくみとして色々な施設が連携することはとてもよいと思う。借りた本の返却を商業施設でできるようになって便利だと感じている。時々カードを忘れてしまうことがあるので、スマホの機能を使ってデジタル化が進むと助かります。	1 素案どおり	いただいたご意見については、今後の図書館システム検討の参考にさせていただきます。
77	39	学校図書館支援センター、学校図書館及び図書館との連携の充実	学校図書館支援センターは学校図書館の運営の支援にあたっていますが、どのくらい利用されているのでしょうか？知用状況を知りたいと思います。支援センターだよりによれば、2015年は配員が4名であったのが、令和3年は3名と減っています。	1 素案どおり	学校図書館支援センターにおきましては、過去3年間の1年間平均ですが、支援職員の支援として相談を182件、学校訪問を93回行いました。また、支援用図書の貸出を182回、6,864冊行いました。
78	その他		全体にかかることになりましたが、活動を進めるには、お金と人手が必要です。人が動けば、必要な経費は発生します。計画の文章に盛り込まれることではないために、書かれていないだけかもしれませんが、十分な予算をお願いします。	1 素案どおり	いただいたご意見を参考に、計画を推進してまいります。
79	その他		◇その他 市民の意見がどの程度反映されているのかが不透明。「検討しています」などと曖昧な表現をするのではなく、具体的な成果なり、結果なりを知らせてほしい。	1 素案どおり	子ども読書活動推進会議を通じ、計画の進捗状況の把握、検討を行うとともに、その内容は公表してまいります。

福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）の概要【総論】

計画策定の意義

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくために欠くことのできないものであり、子どもの読書活動推進に関する基本的な考え方や施策の方向性について明らかにする。

- 計画の位置づけ：「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）第9条第2項に定める「市町村子ども読書活動推進計画」として策定
- 計画の対象：概ね18才以下のすべての子ども
- 計画期間：令和5年度から令和10年度の6年間

1. 計画の目指す姿

《第2次福岡市教育振興基本計画》
やさしさとたくましさをもち ともに学び
未来を創り出す子ども

- ・確かな学力の向上、豊かな心の育成
- ・子どもの読書活動の推進

《第3次計画における成果と課題》

【成果】

○身近な場所に読みたい本がある環境づくりを行ったことで、読書活動の充実につなげることでできた。
○あらゆる年齢層に対して読書に親しむ機会を提供することができた。

【課題】

○1か月に本を1冊以上読む子どもの割合が減少傾向。
○読書に関する様々な取組みの状況等を情報共有の場としてICTを活用する等、ICTを活用した体制づくりの推進。

第4次計画では、第3次計画の5つの基本目標を4つに整理し、その成果を活かすとともに、課題解決に向け、4つの分野で取組みの行政セクション等を明確にし、子ども達の本の世界を広げる読書活動を推進する。

2. 基本目標と数値目標

子ども達が心豊かに生きていくために、自ら読書を楽しみながら人との関わりの中で読書の楽しみを広げ、子どもと大人が共にことば輝くまち「福岡市」を目指して、子どもの読書活動を推進する。

【4つの目標】

1 自分から
読書に親
しめる環
境づくり

2 自分から
読書に親
しめる機
会づくり

3 子どもの
読書活動
を支える
人材づくり

4 子どもの読書活動を支えるしくみづくり

広げよう 子ども達の本の世界
共につくろう ことば輝くまち

【数値目標】

- 読書が好きな子どもの割合…90%以上
- 1か月に本を1冊以上読む子どもの割合…5%増
【現状値】令和3年度意識調査
 - ・読書が好きな子どもの割合：87.5%
 - ・1か月に本を1冊以上読む子どもの割合：69.1%

3. 重点的に取り組む施策

目 標	家庭・地域	学 校	図 書 館
1 自分から読書に親しめる環境づくり	★市の施設等における図書に関する事業等の周知	★障がい等のある子どものニーズに合った読書環境の充実	★読書に関する情報の発信
2 自分から読書に親しめる機会づくり	★乳幼児期から大人と一緒に本とふれあう機会づくり	★読書を楽しむ、楽しさを共有する、楽しみ方を知る機会づくり	★大人も子どもも楽しめる読書に親しむ機会づくり
3 子どもの読書活動を支える人材づくり	★地域の読書活動に関わる人材への活動の支援	★子ども読書リーダーの育成	★講座の充実
4 子どもの読書活動を支えるしくみづくり	★家庭、地域、学校、図書館等が連携し課題解決を図るためのICTを活用した体制の強化		

4. 推進体制

1. 子ども読書活動を推進するための体制を強化
2. 関連機関等との連携
3. 地域ボランティア等との共働

パブリックコメントの実施
令和4年12月下旬
～令和5年1月下旬

福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)基本目標

広げよう 子ども達の本の世界 共につくりよう ことは輝くまち

家庭・地域

図書館

<方向性>

<具体的施策>

市の施設等の環境整備の充実

★市の施設等における図書に関する事業等の周知

障がい等のある子どものニーズに合った読書環境の充実

・公民館における子どもの読書環境の充実
・保育所等における子どもの興味、関心を高める環境づくり
・様々な施設等における図書教育の充実

・チラシやSNS等による企画や図書の紹介

・障がい児通所支援施設等における子どもの読書環境の充実
・点字図書館に関する事業等の発信

<方向性>

<具体的施策>

図書館の環境整備の充実

市の施設等における図書に関する事業等の周知

★読書に関する情報の発信

障がい等のある子どものニーズに合った読書環境の充実

・児童図書、児童研究資料等の収集、提供

・図書館利用の啓発

・保護者への情報発信
・図書館情報誌等の発行

・障がい等のある子どもの読書活動を支援する環境づくり

目標1 自分から読書に親しめる環境づくり

<方向性>

<具体的施策>

学校図書館の環境整備の充実

読書に関する情報の発信

★障がい等のある子どものニーズに合った読書環境の充実

・図書の適正な配備と管理の充実

・子どもの読書活動推進に関する情報の提供

・特別支援学校など多様な学びの場における読書活動及び環境の充実

学校

家庭・地域

図書館

<方向性>

<具体的施策>

★乳幼児期から大人と一緒に本とふれあう機会づくり

家庭で親子が読書を楽しむ機会づくり

大人も子どもも楽しめる読書に親しむ機会づくり

障がい等のある子どもが読書に親しむ機会づくり

・ブックスタート事業の推進
・子どもプラザにおける子どもの読書活動の推進
・保育所における子どもの読書活動の推進

・保護者への読み聞かせの重要性について啓発
・親子で絵本に親しめる機会の提供

・子どもが本に触れる機会の充実

・障がいのある子どもへの読み聞かせの充実
・日本語を母語としない子どもも楽しめる読み聞かせの機会の提供

<方向性>

<具体的施策>

★大人も子どもも楽しめる読書に親しむ機会づくり

子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり

障がい等のある子どもが読書に親しむ機会づくり

・絵本月間(12月)の実施など子どもを中心とした図書館催事の充実

・子どもと本をつなぐ機会の充実(おはなし会や講座等の開催)
・ヤングアダルト等への読書サービスの充実

・障がい等のある子どもと本をつなぐ機会の充実

目標2 自分から読書に親しめる機会づくり

<方向性>

<具体的施策>

子どもの読書活動の実態の把握

★読書を楽しむ、楽しさを共有する、楽しみ方を知る機会づくり

子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり

障がい等のある子どもが読書に親しむ機会づくり

・学校教育における読書活動の実態の把握

・学校図書館を活用した教科との関連を図る取組み等の充実

・学校における読書活動の推進

・障がい等のある子どもの本と出会う機会の充実

学校

数値目標 読書が好きな子どもの割合 …90%以上
1か月に本を1冊以上読む子どもの割合…5%増

家庭・地域

図書館

<方向性>

<具体的施策>

読書活動に関わる人材の育成

・アジア美術館における読書ボランティアの育成

★地域の読書活動に関わる人材への活動の支援

・保育所における関係機関・地域ボランティアとの連携による活動の場の提供

<方向性>

<具体的施策>

★講座の充実

・スタンダード文庫を活用した人材の育成
・公民館や地域文庫活動への支援となる読書ボランティアの育成

読書活動に関わる人材への活動の支援

・地域における読書ボランティアの活動の支援

小学生子ども読書リーダーの育成

・学校教育における読書活動推進の支援

目標3 子どもの読書活動を支える人材づくり

<方向性>

<具体的施策>

★子ども読書リーダーの育成

・総合図書館との連携による子ども読書リーダーの育成

教員や学校司書の研修の充実

・学校司書の効果検証
・読書活動推進を図る研修の充実

学校

目標4 子どもの読書活動を支えるしくみづくり

家庭・地域

図書館

★家庭、地域、学校、図書館等が連携し課題解決を図るためのICTを活用した体制の強化

・子ども読書関係団体との連携の推進
・家庭、地域、学校、図書館等との連携の推進
・情報通信手段の活用

共読の推進

・「福岡市子どもと本の日」と「共読」の推進

学校図書館支援センター、学校図書館及び図書館との連携の充実

・学校図書館支援センター等の利用の促進

子どもと本とメディアのよい関係づくり

・読書活動とメディアの関係づくり
・メディアリテラシー教育の推進

学校